

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	第16回東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座例会および第13回東邦医学会佐倉内科分科会
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2021.06.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 68(2). p.78 85.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	学会抄録(分科会)
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD50981016

学会抄録 (分科会)

第 16 回東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座例会 および第 13 回東邦医学会佐倉内科分科会

2020 年 12 月 6 日 (日) 10 時～17 時 40 分
東邦大学医療センター佐倉病院 7F 講堂

開会の挨拶 龍野一郎

第 I 部 学内研究発表

座長 清水一寛, 高田伸夫

A グループ

非結核性抗酸菌症の臨床的基準を満たす患者における下気道細菌叢の検討

岩崎広太郎

臨床的に MAC 症が疑われる患者 25 例に対し, MAC 抗体, BALF 抗酸菌培養と 16S rRNA gene sequencing を用いて retrospective に研究した. 16S rRNA gene sequencing では抗酸菌培養よりも MAC 検出感度が低く, pseudomonas 属と MAC は排他的に存在している傾向にあった.

B グループ

ベージュ脂肪出現を抑制する LR11 の培養脂肪細胞における発現変動

中村祥子

LR11 欠損マウスではベージュ脂肪が出現し糖尿病が抑制される. 培養脂肪細胞において LR11 mRNA はベージュ脂肪への分化とともに熱産生遺伝子 UCP-1 が増加するのに対し低下した. LR11 はベージュ脂肪機能を調節する可能性がある.

C グループ

Changes in arterial stiffness monitored with cardio-ankle vascular index (CAVI) during hemodialysis therapy

佐藤修司

透析中の循環動態と血管弾性指標 cardio-ankle vascular index (CAVI) の変動を観察した. 血圧低下時に CAVI 上昇 (血管収縮反応) だけでなく, CAVI 低下 (血管拡張反応) という相反なる変動が観察された. 血圧維持における CAVI の新たな役割を提示する.

D グループ

潰瘍性大腸炎患者におけるステロイド治療の有効性の検討

宮村美幸

中等症以上の潰瘍性大腸炎患者に対しての第一選択薬はステロイドだが, ステロイドの漸減や中止で約 30% の患者で再燃する. ステロイド治療の有効性, 2 回目治療の有効性を解析し, ステロイド治療の最適化を検討する.

E グループ

多系統萎縮症における消化管運動障害と下部尿路所見の関連についての検討

館野冬樹

多系統萎縮症は、高度の便秘や頻尿・排尿障害を呈することが知られている。しかし、排尿障害との関連について検討した報告はまだない。今回当院での32例について colon transit を用いた大腸通過時間とウロダイナミクスの関連について検討した。

血液内科

異分野交流可能な佐倉内科の利点をいかして

清水直美

異分野の視点から新しい研究を行っています。骨髄異形成症候群の病態進展と酸化ストレスの関わり化学療法が動脈硬化進展に与える影響（悪性リンパ腫）プレセプシンの新たな産生機序、現在までの結果を報告します。

腎臓内科

身体組成分析に基づく透析適正体重の定量的評価法の開発（パイロットスタディ）

大橋 靖

一般臨床において体液量の評価は多角的に行われており、未だ、透析領域においても透析適正体重の定量的評価法は確立されていない。これまでに我々は、多周波生体電気インピーダンス法により計測された日本人健常者サンプルデータを用い、加齢に伴う標準的な細胞内外水分量比の変化を示す2次回帰式を作成した。今後、その式を用い、慢性維持透析（hemodialysis；HD）患者の過水和（overhydration；OH）を算出し、本方法による透析適正体重（ドライウェイト）の定量的評価の妥当性を検証する予定である。今回、パイロットスタディとして、HD患者134名（男性98名、女性36名）の結果を示す。

第 II 部 前期1年目研修医発表

座長 松岡克善, 清水直美

1. 治療に難渋した感染性巨大肝嚢胞の一例

戸張敬太

指導医名：木村道明（Dグループ）

胸部症状で他院受信された際に無症候性巨大肝嚢胞を指摘された72歳女性の方。嚢胞感染を来し入院加療としたが治療に難渋し最終的に手術となった症例を経験したため文献的考察を交えて報告する。

2. 特殊な脂質異常の併存から希少病態の診断に至った非典型的経過の溶血性貧血の一例

福田光史

指導医名：山口 崇（Bグループ）

アルコール性肝障害に非典型的経過の溶血性貧血を合併した61歳女性。併存する特殊な脂質異常を手掛かりに Spur cell anemia の診断に至った。本病態の異常脂質は未知の部分が多く、本症例を分析し考察を交え報告する。

3. 意識障害を呈した徐脈性心房細動の一例

櫻井大雅

指導医名：伊藤拓朗（Cグループ）

84歳女性。意識障害で救急搬送。心電図波形にて徐脈性心房細動が疑われ、ペースメーカー挿入術を行い、状態改善を認めた一例を経験した。文献的考察を含めて報告する。

4. 未分化大細胞リンパ腫の化学療法中に著しい起立性低血圧を合併した一例

笠井美里

指導医名：渡邊康弘，阿部一輝，恩田洋紀，清水直美 (Bグループ)

79歳男性。肺癌，前立腺癌の既往あり。左腋窩に腫瘤を自覚し精査後に未分化大細胞リンパ腫 Stage IIA と診断した。CHOP 療法を開始した後，薬剤性と思われる著しい起立性低血圧を発症した。考察を交えて報告する。

5. 骨髄異形成症候群に血栓性微小血管症を合併した一例

杉本龍春

指導医名：渡邊康弘 (Bグループ)

79歳男性。5年前に骨髄異形成症候群と診断し免疫抑制剤を使用していた。発熱，黄疸，汎血球減少，急性腎障害が出現し敗血症の診断で入院した。血栓性微小血管症を併発したと考えられた。考察を交えて報告する。

6. 台風による家屋破損との関連が疑われる夏型過敏性肺炎を生じた一例

中村雄介

指導医名：早川 翔 (Aグループ)

46歳女性。2ヶ月前からの発熱及び咳嗽にて受診し，胸部CTにて夏型過敏性肺炎を疑い入院となった。現病歴より自然災害の関与が疑われる稀有な症例と考えられ経過及び治療について文献的考察を交えて報告する。

7. 経皮的冠動脈形成術後に短期間で突然死を来した一例

藤川裕成

指導医名：坪野雅一 (Cグループ)

83歳男性。非ST上昇型心筋梗塞の診断で当院へ紹介。経皮的冠動脈形成術を施行し，一度退院になるも短期間でステント内再狭窄が発覚し再治療となるも，術後9日で突然死に至った症例を報告する。

8. 肺腺癌 Stage IIIB に対して免疫チェックポイント阻害薬を使用したところ女性化乳房を呈した一例

鎌田雅之

指導医名：渡邊康弘 (Bグループ)

68歳男性。肺腺癌 Stage IIIB に対して免疫チェックポイント阻害薬を使用していたが，経過中に女性化乳房を認めた。精査し，薬剤性の甲状腺機能低下症及び副腎皮質機能低下症と判断した。文献的考察を含め報告する。

第 III 部 後期研修医発表

座長 飯塚卓夫，齋木厚人

1. 治療に難渋した急性下壁梗塞による心原性ショックの1例

入江祐介

指導医：美甘周史 (Cグループ)

80歳男性。急性下壁心筋梗塞による心原性ショックの状態救急搬送。緊急で大動脈バルーンパンピング補助下で経皮的冠動脈形成術を施行。急性腎不全も伴い治療に難渋した1例を経験したため報告する。

2. SGLT2 阻害薬内服中に生じた糖尿病性ケトアシドーシス (DKA) の一例

吉田規人

指導医：山口 崇 (Bグループ)

後期高齢2型糖尿病症例。インスリン分泌は保持されているが重症のDKAを来した。血糖値360 mg/dl とDKAとしては低値に留まり非典型的な経過で，SGLT2 阻害薬が関与する正常血糖DKAの病態と推定した。本病態について考察を交え報告する。

3. MEFV 遺伝子 S503C hetero (exon5) 陽性の家族性地中海熱の一例

酒井大輝

指導医名：熊野浩太郎 (A グループ), 山田哲弘 (D グループ)

22 歳女性。発熱、関節痛、腹痛で来院。MEFV 遺伝子 S503C hetero (exon5) 陽性であり、家族制地中海熱を疑った。同遺伝子は非典型例であり、症状や血液検査も典型的ではなかったため報告する。

4. E 型肝炎に伴う急性肝障害 1 例

坂口吉朗

指導医名：西宮哲生 (D グループ)

56 歳男性。潰瘍性大腸炎にて生物学的製剤で維持療法中。感冒薬服用後の急性肝障害にて入院。薬剤性が疑われたが、退院後 E 型肝炎と診断された。生物学的製剤との関連も含め、文献的考察を踏まえ報告する。

5. 体重減少、下痢を主訴に来院した AIDS の一例

高橋 禎

指導医名：熊野浩太郎 (A グループ)

71 歳男性。1 ヶ月で 20 kg の体重減少と下痢、労作時呼吸苦を主訴に救急外来を受診した。原因精査の結果、HIV 感染及び AIDS、ニューモシスチス肺炎と診断し、加療を開始した。その後、入院経過中に ART 導入に至った 1 例を経験したので報告する。

6. 両側の広範な肺血栓塞栓症による突然死の 1 例

清水桃子

指導医名：坪野雅一 (C グループ)

50 歳男性。めまい主訴に救急搬送、1 型呼吸不全、両側に広範な肺血栓塞栓、下肢静脈血栓を認め入院加療となった。第 3 病日に呼吸状態悪化し、急死した。病理解剖所見と共に文献的考察を踏まえて報告する。

7. 高齢発症の潰瘍性大腸炎の一例

白井萌子

指導医名：宮村美幸 (D グループ)

85 歳女性。血便、腹痛を主訴に受診。精査より潰瘍性大腸炎と診断された。内科的治療開始したが奏功せず手術となった。近年、高齢者の潰瘍性大腸炎の発症頻度が増加しているため当院の症例を交え報告とする。

8. 重症僧帽弁閉鎖不全症に多発血管病変を併発した一例

池田拓史

指導医名：伊藤拓朗 (C グループ)

75 歳女性。重症僧帽弁閉鎖不全症、心房細動による心不全で入院。入院後には肺血栓塞栓症、末梢動脈疾患の併発が発覚。心不全治療に難渋し、準緊急的に僧帽弁手術を施行した。

文献的考察を交えて報告する。

第 IV 部 出向中医師発表

座長 大橋 靖, 熊野浩太郎

1. 市中病院における新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

村上 悠

指導医名：柴田貴久 (いすみ医療センター)

2020 年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、各病院ではその対応に追われたが、実際に患者の受け入れをしているいすみ医療センターにて行われている感染対策や外来、入院診療について、その取り組みを報告する。

2. 難治性 MRSA 菌血症の 1 例

内堀 超

指導医名：杉山隆夫（独立行政法人国立病院機構下志津病院）

発熱を主訴に受診された 68 歳男性。血液培養から MRSA が検出された。抗 MRSA 薬投与下でも長期間に血液培養陽性が持続し、化膿性肩関節炎・脊椎炎、腸腰筋膿瘍も併発した。現在も加療継続中であるが、背景や経過に関し考察する。

3. トルバプタン導入後に振戦、構音障害・下肢脱力を生じ薬剤性障害を経験した一例

池田裕樹

指導医名：倉本充彦、森山憲明（成田赤十字病院腎臓内科）

82 歳男性。慢性腎不全・心不全で通院中。心不全増悪のためトルバプタン導入目的で入院。入院後振戦が出現しその後脱力も出現。MRI で異常はなくトルバプタン休薬後から症状は改善。トルバプタンによる希少な薬剤性障害を経験したため報告する。

4. Valsalva 洞動脈瘤の一例

野中翔矢

指導医名：徳山権一（聖隷佐倉市民病院）

75 歳女性。胸部違和感を主訴に内科外来を受診。精査の結果 Valsalva 洞動脈瘤と診断。非常に稀な症例であり、文献的考察を加えて報告する。

5. COVID-19 流行時期にコンゴ民主共和国から帰国し健康観察期間中に発症した熱帯熱マラリアの一例

小林 楓

指導医名：矢野勇大（成田赤十字病院感染症科）

症例は 22 歳女性。COVID-19 流行時期にアフリカから入国して健康観察期間中に発熱、頭痛、心窩部痛が出現した。末梢血塗抹薄層ギムザ染色標本から熱帯熱マラリアと診断した。入国者の発熱は COVID-19 の有無に関心が集まるが流行地域から鑑別疾患を想起し診断し得た 1 例を報告する。

6. Pembrolizumab による ACTH 単独欠損症を疑った 1 例

高島健太

指導医名：倉本充彦（成田赤十字病院腎臓内科）

76 歳男性。水様便、体動困難で救急搬送。敗血症性ショックと考え治療を行なったが、状態は悪化。副腎不全が否定できず、各種負荷試験を行ない ACTH 単独欠損症の診断に至った。ステロイド投与により、症状は劇的に改善した。免疫チェックポイント阻害薬の内分泌関連有害事象が疑われたため報告する。

第 V 部 今年度優秀論文賞（白井賞）

座長 榑原隆次, 授与 白井厚治

佐藤修司

Effect of nicorandil administration on cardiac burden and cardio-ankle vascular index after coronary intervention

Shuji Sato, et al.

第 VI 部 特別講演

座長 龍野一郎

講師：白井厚治 先生

誠仁会みはま病院 常務理事

演題：「挫折ばかりのわが人生：なぜ生き延びれたか」

略歴：

白井厚治（しらい こうじ）

1973年 千葉大学医学部卒業
 1975年 千葉大学医学部第二内科，脂質代謝研究室入室
 1979-81年 米国シンシナチー大学医学部生化学教室留学
 1990年 千葉大学医学部文部教官講師（内科学第二講座）
 1992年 東邦大学医学部臨床生理機能学研究室助教授
 1994年 東邦大学医学部佐倉病院臨床検査医学研究室助教授
 1997-2003年 同 教授
 2000-2006年 東邦大学医療センター佐倉病院管理担当副院長
 2002年 佐倉病院糖尿病内分泌代謝センター長
 2003-2011年 東邦大学医療センター佐倉病院，内科学講座教授
 2006-2009年 東邦大学医療センター佐倉病院院長
 2011-2015年 血管機能学講座（寄付）客員教授
 2011年 誠仁会みはま病院 研究開発部長
 2014年 同みはま香取クリニック院長
 2020年 誠仁会みはま病院 常務理事
 専攻分野：内科学，代謝学，内分泌学，循環器学，臨床検査学
 専門医，学会の役職歴：日本臨床栄養学会 理事長（2014-2019）
 日本肥満症治療学会 理事長（2014-2019）
 NPO 日本血管健康増進協会 理事
 日本内科学会評議員・認定医，日本糖尿病学会評議員・専門医・指導医
 糖尿病合併症学会評議員，日本動脈硬化学会評議員，日本肥満学会評議員
 主要著書：「フォーミュラー食の原理と実践」（監修）コンパス社 2008
 「新しい動脈硬化指標 CAVI のすべて」（監修）日経 BP 社 2009
 「肥満症治療の総合的治療ガイド」日本肥満症治療学会，編集委員長
 「肥満症治療に必須な心理的背景の把握と対応」日本肥満症治療学会，編集員
 「CAVI から眺める血管機能学」NPO 血管健康増進協会

研修医発表表彰式 松澤康雄

閉会の挨拶 榊原隆次

東邦大学医学部佐倉病院 総合内科医局前期1年目研修医発表プログラム

(2020年10月～2021年3月のローテーションメンバー)

日時：2021年2月22日(月)18時～19時30分

会場：7階講堂

表彰式：2021年3月1日(月)医局会

開会の挨拶 榊原隆次

第I部 前期1年目研修医発表①

座長：清水直美

1. 骨髄異形成症候群に血栓性微小血管症を合併した一例

杉本龍春

指導医名：渡邊康弘 (Bグループ)

79歳男性。5年前に骨髄異形成症候群と診断し免疫抑制剤を使用していた。発熱、黄疸、汎血球減少、急性腎障害が出現し敗血症の診断で入院した。血栓性微小血管症を併発したと考えられた。考察を交えて報告する。

2. 抗ARS抗体陽性特発性間質性肺炎の一例

井上大幹

指導医名：早川 翔 (Aグループ)

59歳女性。初診時に抗ARS抗体陽性の間質性肺炎と診断した患者。二年後に皮膚筋炎症状発現し治療介入したにも関わらず病勢コントロール不良のため入院加療となった症例を経験したので報告する。

3. 水痘・帯状疱疹ウイルスによる無菌性髄膜炎の加療中にRamsey-Hunt症候群を合併した一例

園部 聡

指導医名：館野冬樹 (Eグループ)

80歳男性。帯状疱疹および無菌性髄膜炎にて入院。アシクロビルにて加療中Ramsey-Hunt症候群を発症した。アシクロビル継続、ステロイドパルス追加にて著明な改善を認めた。特異な経過であった本症例に考察を交えて報告する。

4. 偽痛風を合併し診断に難渋した成人Still病の一例

吉野僚介

指導医名：熊野浩太郎 (Aグループ)

84歳男性。発熱、体動困難、多発関節痛にて救急搬送。検査にて偽痛風の診断に至るもNSAIDsにて改善量が乏しかった。精査にて成人Still病の診断に至り、ステロイドにて加療し改善を認めた一例を報告する。

5. DPP-4 阻害薬による水疱性類天疱瘡に対するステロイドの減薬中に、後天性血友病 A を発症した一例

池田梨乃

指導医名：清水直美，渡邊康弘 (B グループ)

76 歳男性。水疱性類天疱瘡に対しステロイドで加療中に顕著な高血糖となり入院した。口腔粘膜と体幹に血腫が出現したことから APTT の延長を契機に後天性血友病 A と診断した。文献的考察を交えて発表する。

第 II 部 前期 1 年目研修医発表②

座長：大橋 靖

6. 遺伝性 AT-III 欠損が強く疑われた肺血栓塞栓症の一例

麻野徳仁

指導医名：岩川幹弘 (C グループ)

45 歳男性。左下肢の疼痛を自覚し、下肢静脈と肺動脈に血栓を認め、肺血栓塞栓症と深部静脈血栓症の診断となった。家族で同様の症状の方がおり、AT-III の低下を認めたため遺伝性を疑うこととなった。考察を交えて報告する。

7. 多数の重症化リスク因子を持ち感染により腎機能増悪をきたした COVID-19 肺炎の一例

塩口真澄

指導医名：力武はぎの (A グループ)

71 歳女性。肥満症・糖尿病性腎症・高血圧が既往にあり COVID-19 感染で入院。腎機能・呼吸状態の悪化を認め ICU 管理となったが、治療反応性乏しく第 8 病日に永眠。多数の重症化リスクをもつ症例を経験したので報告する。

8. カルシニューリン阻害薬 (CNI) 内服中に発症した IgA 血管炎の一例

田宮創希

指導医名：木村道明 (D グループ)

多形慢性痒疹に対して CNI で治療中の 74 歳男性。下肢紫斑と十二指腸炎の為、入院となった。精査の結果 IgA 血管炎の診断となり、ステロイド治療にて改善を認めた症例を経験した為、文献的考察を交えて報告する。

9. びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の化学療法中に広範な深部静脈血栓症を発症した一例

平塚萌子

指導医名：渡邊康弘，阿部一輝，恩田洋紀，清水直美 (B グループ)

84 歳男性。びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫 Stage IIIA で R-CHOP 療法 5 コース目に左下腿浮腫を認め、広範な深部静脈血栓症が発覚した。腫瘍患者における血栓症について、文献的考察を交えて報告する。

閉会の挨拶 松岡克善